

# 徳久アサミノ遺跡

福岡県筑後市大字徳久所在遺跡の調査  
筑後市文化財調査報告書  
第 103 集

2012

筑後市教育委員会

# 徳久アサミノ遺跡第1次調査

2012

筑後市教育委員会

## 序

本報告書は、平成 22 年度に実施しました徳久アサミノ遺跡第 1 次調査の成果をまとめたものです。

調査では、筑後市を南北に貫く古代西海道駅路が検出され、奈良時代から平安時代において律令制度による国家的な道路が整備されていたことが判明しました。現在の当市が交通の要所といわれる基礎となる古代の重要な遺跡となりました。

本報告書が地域における文化財保護の理解を深め、学術研究の一助となることを願っております。

今回の調査にあたって、多大なるご協力をいただきました関係各位に深く感謝申し上げます。

平成 24 年 3 月

筑後市教育委員会  
教育長 高巣 一規

## 例言

1. 本書は平成22年度に筑後市教育委員会が行った徳久アサミノ遺跡第1次調査の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査及び出土遺物の整理は筑後市教育委員会が行った。出土遺物、図面、写真等は筑後市教育委員会で収蔵、保管している。発掘調査及び整理作業の関係者は第1章に記している。
3. 本書に使用した図面の遺構図は上村英士が作成し、遺物の実測・デジタルトレースは株式会社埋蔵文化財サポートシステム福岡支店に、遺構のデジタルトレースは上村が行い、委託業務の監理及び管理は筑後市教育委員会が行った。
4. 本書に使用した遺構の写真撮影は上村が行った。
5. 今回の調査に用いた測量座標は世界測地系を基準としている。
6. 本書に使用した遺構の表示は以下の略号による（筑後市における埋蔵文化財の取り扱いについて：2008に準拠している）。  
SD - 溝 SK - 土壌 SP - ピット SF - 道路状遺構 SX - 不明遺構
7. 本書の執筆は上村が行った。

## 目次

I . 調査経過と組織	1
II . 位置と環境	2
III . 調査成果	3
IV . 考察	9

写真図版

抄録

## I . 調査経過と組織

徳久アサミノ遺跡第1次調査は筑後市大字徳久字アサミノに所在する。平成22年11月10日に開発原因者である岸川サチ子氏の依頼で筑後市教育委員会に予備調査依頼が提出され、確認調査を行った。確認調査の結果、当該地で遺構が確認されたため、平成22年12月7日に原因者から筑後市教育委員会に本調査の依頼が提出された。協議の結果、平成22年12月7日に埋蔵文化財発掘調査受託契約を締結し、担当課である社会教育課社会教育係による現地での本調査を実施した。当該地の約180mについて平成22年12月16日から現地での本調査を実施し、平成23年1月11日に現地調査を終了した。平成23年度に整理作業及び報告書作業を行い、平成24年3月31日に全ての調査を完了した。

発掘調査に関わる調査組織は以下のとおりである。

### 1) 平成22年度

総括	教育長	高巣 一規
	協働推進部長	山口 辰樹
	社会教育課長	高井良清美
	文化スポーツ担当係長	馬場 信二
	(文化財専門職)	小林 勇作
	(文化財専門職)	上村 英士(調査担当)
	(文化財学芸員)	吉村由美子

### 2) 平成23年度

総括	教育長	高巣 一規
	社会教育課長	高井良清美
	文化スポーツ担当係長	村上 一彦
	(文化財専門職)	小林 勇作
	(文化財専門職)	上村 英士(調査担当)
	(文化財学芸員)	吉村由美子

### 3) 発掘調査・整理作業参加者

今山 三咲子 植田 勝子 堤 義弘 加藤 礼子 河添 幸子 馬場 千鶴子

調査及び整理作業に際しては次の方々にご指導、ご教示を賜った。記して心より感謝申し上げます。(順不同、敬称略)

齊部麻矢(福岡県教育庁文化財保護課)

## II. 位置と環境

### ・地理的環境

筑後市は福岡県の南西部、筑紫平野の中央部に位置する。市域をJR鹿児島本線と国道209号が縦断し、国道442号が横断する。また、市南西部には一級河川の矢部川、中央部には山ノ井川や花宗川、北部には倉目川が西流する。市北部には耳納山地から派生する八女丘陵が西に延び、灌漑用の溜池が点在する。低位扇状地である東部や、低地である南西部には農業水路が発達している。当市は県内有数の農業地帯であり、北部の丘陵地域では果樹園や茶畠、東部では米麥中心の田園地帯が広がる。市街地は国道に沿って市の中心部に形成されている。

### ・当市に置ける西海道駅路調査について

当市では現在までに西海道駅路の調査を12箇所で行っている。これらの調査は、文化財包蔵地図（平成17年度更新）において、過去の調査事例や歴史地理学による推定ラインに基づいた「線」による包蔵地として認定している成果である。したがって、ライン上に載る土地において開発が行われる際には、筑後市予備調査要項による予備調査及び文化財保護法第93条及び94条の提出により埋蔵文化財の手続きが必要となる。予備調査において遺構（西海道駅路及び付帯する施設等）が検出された場合、開発による遺構への影響によって、慎重工事、工事立会、発掘調査など文化財保護法第93条及び94条を受けた福岡県教育委員会が指導を行っている。

西海道駅路が当市を縦断していることは先学により判明しているが、遺構自体が集落遺跡等と違い「路面」と「側溝」という構造を呈していることから、予備調査の段階において周辺の地形及びトレーニングの設定等を考慮しなければならない。厳密には、推定ラインがほぼ南北軸に走ることから、トレーニングを東西方向に設定し、路面及び側溝を確認しなければならない。路面については、これまでの調査事例から削平を受けている場合が多いため、トレーニングで路面検出のみでは遺構と判断できない場合があり、細心の注意が必要となる。また、当市中央から北部分の地域では現在の土地境界（大字境等）が西海道ラインに相当しており、現在の境界が西海道駅路の「西側溝基準」「東側溝基準」「路面中心線基準」など多岐にわたって存在している。例に挙げると「山ノ井川口遺跡」では現在の境界と駅路東側溝、今次調査である「徳久アサミノ遺跡」では駅路西側溝が現在の境界に面している。「羽犬塚山ノ前遺跡」では調査区外北側の大字熊野地域は駅路西側溝を大字前津との大字境とし、調査区に入ると境界が駅路東側溝に移り、調査区中央を貫き、調査区南端で西側溝に戻るという境界をなす地域もある。これらは、西海道駅路廃絶後の土地利用による境界設定が考えられ「山ノ井川南野遺跡第3・4次調査」の東側溝が13世紀以降も区画溝として開削されていたことが物語っている。また西海道駅路推定ラインに存在する小字名「車路」「中道」「馬洗渕」「横道」「道山」「丑ノマヤ」など、古代律令制度にはじまる歴史的な空間形成が色濃く残る地域である。

### 【参考文献】

- 『筑後市史 - 第1巻 -』 筑後市 1997年
- 『筑後市内遺跡群IV』 筑後市文化財調査報告書第45集 2002年
- 『羽犬塚山ノ前遺跡』 筑後市文化財調査報告書第48集 2003年
- 『山ノ井川南野遺跡III』 筑後市文化財調査報告書第64集 2005年
- 『筑後市内遺跡群V』 筑後市文化財調査報告書第85集 2008年

### III. 調査成果

#### (1) はじめに

平成 22 年 12 月 13 日から重機による表土剥ぎに着手し、現場廃土の都合上、東・西調査区を設定して反転調査を行った。調査は平成 23 年 1 月 13 日に埋め戻し及び現場作業撤収を終え現場引渡しを行った。

調査区現況は宅地跡であり、調査区は新設される道路部分であり、東西に延びる細長いものとなった。遺構の掘削は表土から遺構面までを(有)徳光建設(代表 橋爪徳光)に委託し、遺構面からは地元作業員による手作業の掘削を行った。

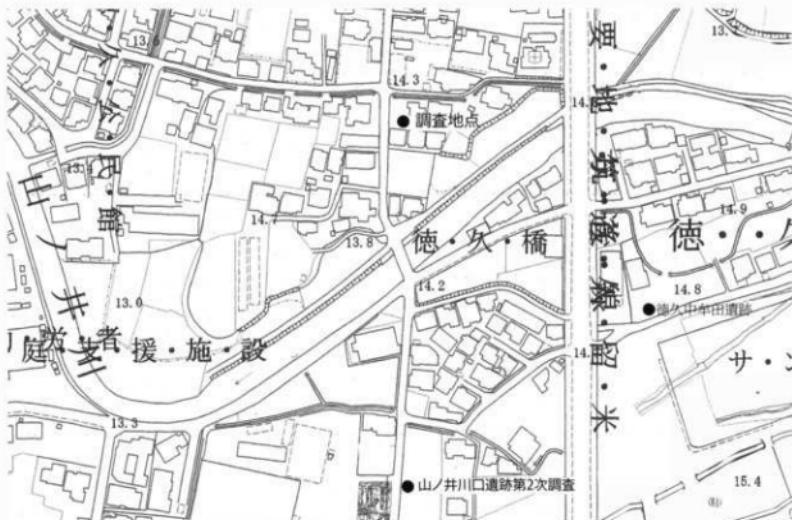


Fig.2 調査地点位置図 (1/3000)

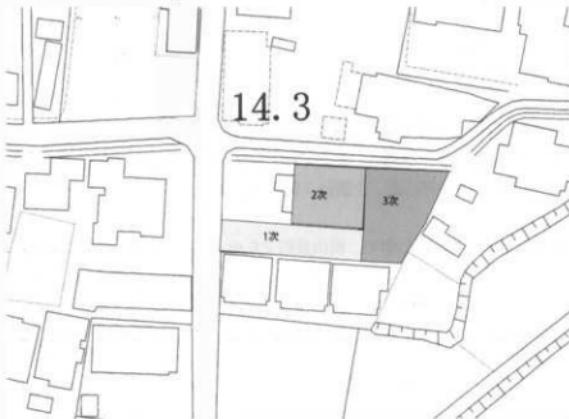


Fig.3 調査地点位置図 (1/1000)

## (2) 基本土層

層位は、約 5 cm～10 cm の盛土下に約 25 cm～30 cm の黄茶色土の包含層を検出し、暗茶褐色土の地山に切り込む形で遺構を検出している。遺構は溝、ピット、土壤等を確認している。

## (3) 検出遺構

### 土壤

#### 1SK01 (Fig.4 Pla.2)

調査区中央で検出した正方形に近い小豎穴状の土壤である。検出幅約 1.6 m～1.75 m、深さ約 0.25 m、埋土は黒色系で、底部はフラットで硬化は見られない。軸はほぼ G.N に沿っている。遺物は須恵器：壺、壺、皿 土師器：甕、壺×皿、壺（暗文）を出土している。

### 道路状遺構

#### 1SF35 (Fig.4 Pla.3～7)

調査区西半分を占める道路状遺構で、いわゆる西海道駅路本体である。構造的には東西両側溝及び路面である。今次調査では東側溝 3 条（1SD10・15・40）、西側溝を 3 条（1SD20・1SD25・1SD30）検出し、路面においては一部で路盤形成時の突き固め痕跡を確認しているが、使用時の路面は削平されていると考えられる。方位はほぼ G.N に沿っており、当市他事例に擬している。

### 道路側溝

#### 1SD10 (Fig.4 Pla.4・5)

調査区中央を南北に走る西海道駅路東側溝である。検出長約 5.0 m、幅約 1.7 m～1.9 m、最大深さ約 0.78 m を測る。東側にテラスを設け、断面は逆台形を呈する。最終埋土は黒色系であり一部は硬化し、下層は茶色系、灰色系の埋土である。調査区北側隅では溝内部が枝分かれしており（北壁土層第 14 層～19 層：1SD40）、この溝は埋土が硬化しており、1SD10 最終埋土に切られている。また、溝底部は掘削痕若しくは意図的な小ピットが連続している。遺物は須恵器：皿、鉢、大甕、蓋 土師器：壺、甕、皿 黒色土器：椀（A 類）を出土している。

#### 1SD15 (Fig.4 Pla.4)

1SD10 東隣で検出した 1SD10 を切る溝である。検出幅約 0.4 m を測り、断面は U 字状を呈する。埋土は淡茶黒色土で凝灰岩製石製品が出土している。

#### 1SD20 (Fig.4 Pla.5・6)

調査区西端で現土地境界にほぼ沿った南北に走る西海道駅路西側溝である。検出長約 2.7 m、幅約 0.9 m、最大深さ約 0.31 m を測る。断面は緩やかな U 字状を呈し、最終埋土上的一部分が面として硬化している。遺物は少なく土師器：壺×皿を出土している。

#### 1SD25 (Fig.4 Pla.5・6)

1SD20 東隣で検出した南北に走る溝で、検出南端で 1SD20 に切られる。検出長約 2.7 m、幅約 0.25 m～0.35 m、最大深さ約 0.15 m を測る。断面は逆台形であり、底部の一部に掘削痕若しくは小ピットが連続する。遺物は土師器：壺×皿 土製品：粘土塊を出土している。

#### 1SD30 (Fig.4 Pla.5・6)

1SD25 東隣で検出した南北に走る溝で、検出長約 2.6 m、幅約 0.4 m、最大深さ約 0.1 m、断面は緩やかな U 字状を呈する。埋土は淡茶黒色土で締りがない。遺物は須恵器：壺、大甕 土師器：大壺、壺×皿を出土している。

### 路盤

#### 1SX37 (Fig.4 Pla.7)

調査区西側南端で検出した不定形の小ピット群である。路面の中央やや西よりに分布する。埋土に小疊、土器片があり、マーブル状に縮め固められている。路面土層観察ではこれらの痕跡と同様に地山上の覆土にも見られ、使用路面は覆土より上面に存在したものと考えられる。

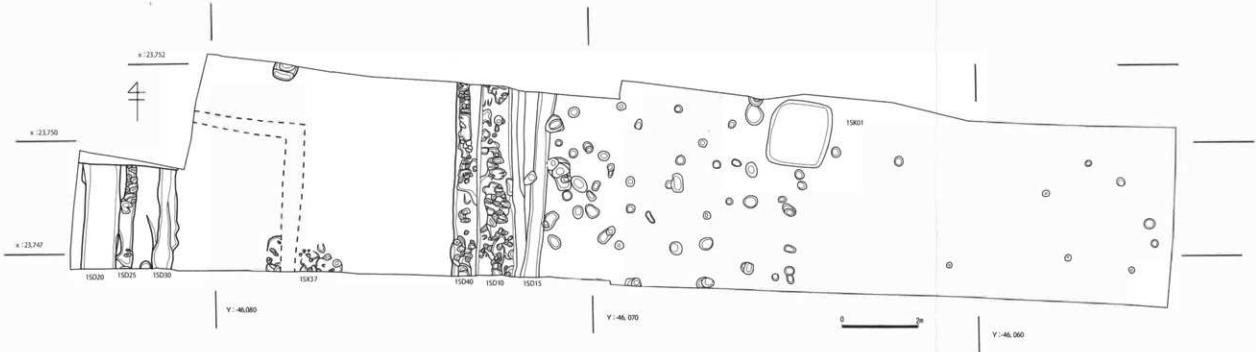
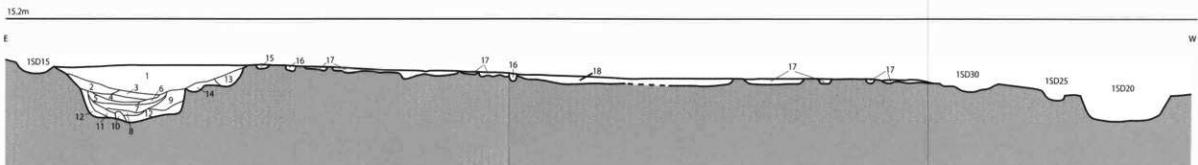


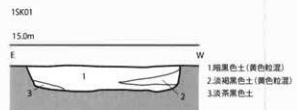
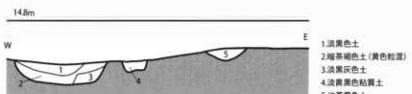
Fig.4 遺構全体図 (1/100)

道路状遺構 調査区南壁土層断面

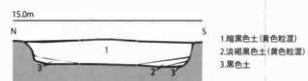
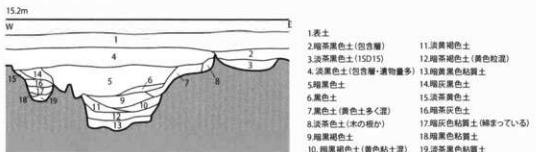


- |               |               |                |               |
|---------------|---------------|----------------|---------------|
| 1.暗黒色土        | 6.灰褐色土        | 11.暗葉褐色土(黄色粒混) | 16.淡集茶色土(鉄突痕) |
| 2.淡集灰色土(黄色粒混) | 7.黒褐色土        | 12.暗葉褐色粘質土     | 17.灰色土        |
| 3.栗色土         | 8.淡黃褐色土(黄色粒混) | 13.暗葉灰色粘質土     | 18.淡灰褐色土      |
| 4.灰褐色土        | 9.暗黃褐色土       | 14.淡黃灰褐色粘質土    | 地山: 淡黄色粘質土    |
| 5.暗葉褐色土(黄色粒混) | 10.黄色粘土(黄色土混) | 15.茶褐色土(鉄突痕)   |               |

西侧溝土層断面



道路状遺構 東側溝土層断面



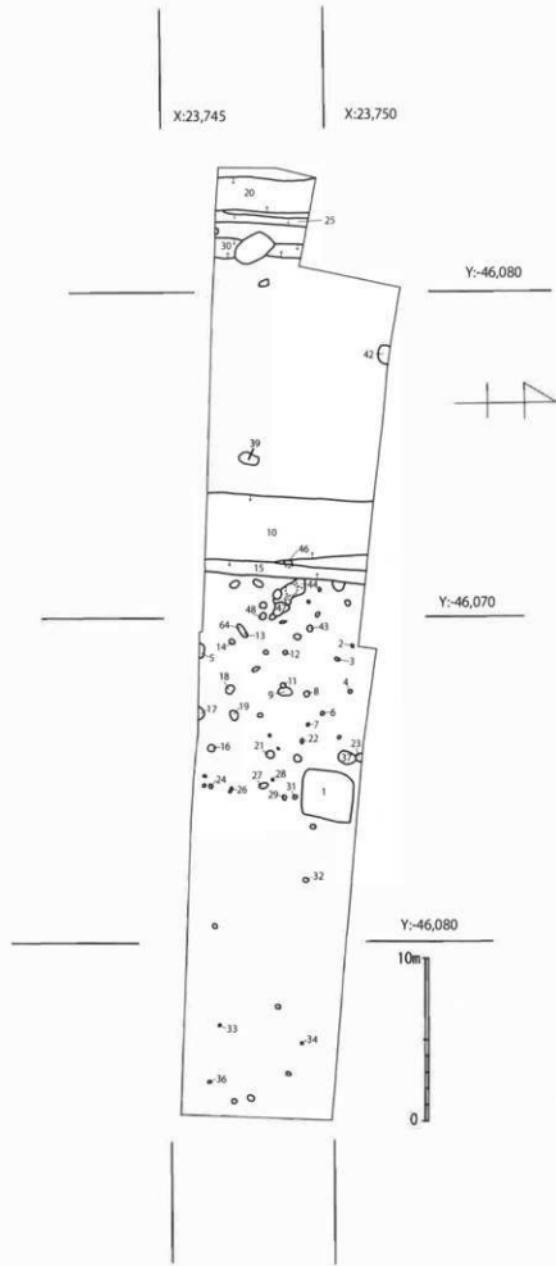


Fig.5 遺構略側図 (1/150)

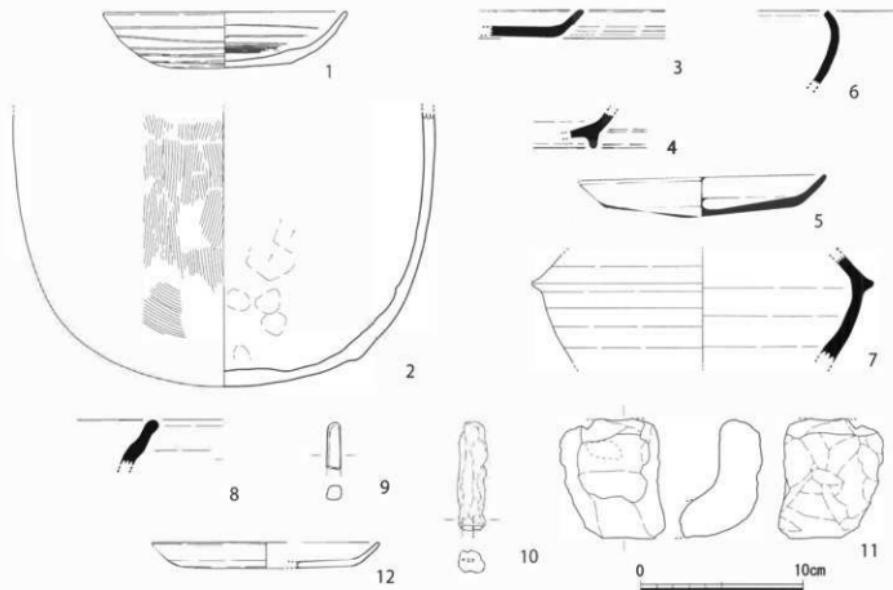


Fig.6 出土遺物実測図 (1/3)

(4) 出土遺物

土壤

ISK01 (Fig.6 Pla.7)

土師器

壺 (1) 口径 14.95cm、器高 3.5cm、底径 8.2cm を測る。内外面ともに、らせん状に暗文を施す。底部は回転ヘラ切り後ナデを施し、ヘラ記号が見られる。底部と体部の境は回転ヘラケズリで面取りを行っている。胎土は精選されており、焼成良好で橙色を呈する。

甕 (2) 脊部下半分の資料で丸底を呈する。外面はハケ目、底部はナデ、内面はヘラケズリ後ナデ、底部は指頭痕が残る。

須恵器

皿 (3) 破片資料で器高 1.75cm を測る。体部はヨコナデ、底部外面は回転ヘラケズリで調整する。焼成還元良好で灰色を呈する。

壺 (4) 底部の小破片資料で断面三角形に近似する高台を貼り付ける。胎土が精選、焼成還元良好、灰色を呈する。

道路側溝

ISD10 (Fig.6 Pla.7・8)

須恵器

皿 (5) ほぼ完形で口径 15.35cm、器高 2.7cm、底径 12.35cm を測る。歪が生じており、体部調整はヨコナデ、底部は回転ヘラ切り後ナデ、焼成還元良好である。

鉢 (6) 口縁部片資料で端部を内湾させるタイプである。調整はヨコナデ、焼成還元良好、灰色を呈する。

壺 (7) 肩部破片資料で屈曲部に断面三角形の突帯を貼り付ける。調整はヨコナデ、焼成還元良好。

ISD30 (Fig.6 Pla.8)

須恵器

壺（8）二重口縁の端部資料で若干屈曲させている。口唇部は丸く仕上げ、調整はヨコナデ。焼成還元不良で灰白色呈する。

#### 路盤

##### 1SX37 (Fig.6 Pla.8)

土製品（9）断面四角形の土製品で、工具の可能性がある。灰黄色を呈し、先端は使用時の摩滅、もしくは作成時に丸く仕上げている。残存長さ 2.9cm、幅 0.9cm、厚さ 0.85cm、重さ 3.2 g を測る。

#### 鉄製品

刀子（10）残存長さ 6.65cm、幅 1.9cm、最大厚さ 1.35cm を測る。鋒び膨れが激しく、刀芯は厚さ 0.1cm 前後である。

#### 溝

##### 1SD15 (Fig.6 Pla.8)

#### 石製品

不明石製品（11）凝灰岩製で塙の可能性がある。内面に金属系の融解物が付着している。重さ 118.8 g を測る。外面はケズリ、内面はケズリ後工具によるナデを施している。

#### ビット

##### S -5 (Fig.6 Pla.8)

#### 土師器

皿（12）口径 14.0cm、器高 1.6cm、底径 10.4cm を測る。磨耗が著しく調整は不明。淡黄色を呈する。

## IV. 考察

今次調査では、西海道駿路本体を確認している。駿路本体を構成する各種遺構及び出土遺物、付属遺構についてまとめる。

道路を構成する要素として側溝・路面があり、今次調査では西側溝 3 条、東側溝 3 条を検出している。これらの側溝で切り合い関係上、前後関係が確認できるのは 1SD10（古）と 1SD15（新）、1SD25（古）と 1SD20（新）である。埋土の状況及び遺構の近似性から東西各側溝の対応を古い順に推定すると以下のよう推定できる。

1SD25 = 1SD40 検出幅近似、壌底に連続する小ビット 路面幅は溝立ち上り約 8.5 m、芯々 9.0 m

1SD20 = 1SD10 検出幅近似、埋土上面に硬化面あり 路面幅は溝立ち上り約 9.5 m、芯々 10.5 m

1SD30 = 1SD15 検出幅近似、埋土近似、やや東へ振れ 路面幅は溝立ち上り約 9.2 m、芯々 9.8 m

これらの推定から路面幅は芯々で約 9.0 m から 10.5 m 程度であることがうかがえる。この推定値は市内の各西海道駿路調査に比しても矛盾はない（市内西海道遺跡 11 遺跡中、芯々データ 38 例において平均芯々は 9.156 m、最大値 12.10 m、最小値 7.60 m、最大・小値を除いた平均は 9.118 m）。また、側溝の形状や壌底に連続する小ビットが穿たれた状況は、今次調査から南へ約 400 m に位置する山ノ井南野遺跡第 3・4 回調査と近似している。これを掘削痕と認識するのか、もしくは埋土が硬化しているため意図がある構造物であるかの解明は今後の課題である。

今次調査で新たな西海道駿路の道路構造については、1SD20 と 1SD10 において埋土上面が硬化している点である。これは側溝廃絶時に人为的に何らかの改造（整地等）が行われた可能性を示唆している。また、1SD20・10 埋没後に 1SD30・15 が造成され路面が若干東に寄る原因については分からぬ。市内では 9 世紀前半には西海道駿路側溝が埋没していると考えられており、1SD30・15 が最終段階の側溝として認識できるが、出土遺物が少なく、遺物から時期を追認することが困難である。7 世紀末に造成されたであろう西海道駿路が 9 世紀前半までの間に 3 度の側溝変遷（位置が若干ぶれる原因）が生まれる理由についても今後の課題である。

道路遺構以外では道路東側に 1SK01 が見られる。これも羽犬塚山ノ前遺跡 SX40 や SI100 と同様で道路と軸がほぼ一致するものである。1SK01 ではカマドや床面等が見られないことから住居ではなく、土壤としたが、この時期に盛行する小窓穴住居との違いや性格については未だ不明である。

## 参考文献

- 『筑後東部地区遺跡群VI』筑後市文化財調査報告書第36集 2001 筑後市教育委員会  
 『筑後市内遺跡群III』筑後市文化財調査報告書第44集 2002 筑後市教育委員会  
 『筑後市内遺跡群IV』筑後市文化財調査報告書第45集 2002 筑後市教育委員会  
 『羽犬塚山ノ前遺跡』筑後市文化財調査報告書第48集 2003 筑後市教育委員会  
 『山ノ井南野遺跡』筑後市文化財調査報告書第59集 2005 筑後市教育委員会  
 『筑後市内遺跡群XⅠ』筑後市文化財調査報告書第85集 2008 筑後市教育委員会

S.番号	遺構番号	遺構内容	切合関係（新→旧）及び特記事項	出土遺物
1	ISKO1	土壤	小堅穴	須恵器：环、垂、皿 土師器：甕、环×皿、环（暗文）
2		ピット		土師器：片
3		ピット		土師器：片
4		ピット		土師器：片
5		ピット	柱穴	土師器：皿、环×皿
6		ピット		粘土塊
7		ピット		土師器：甕、环×皿
8		ピット		土師器：环×皿
9		ピット		須恵器：甕 土師器：甕、环×皿
10	ISD10	道路側溝	西海道駅路東側溝 15→10	須恵器：皿、环、大甕、垂、蓋 土師器：环、甕、皿 黒色上器：椀（A類）
10 南壁 第 1 層		道路側溝	西海道駅路東側溝 15→10	須恵器：甕、甕 土師器：环、甕
10 南壁 第 13 から 14 層		道路側溝	西海道駅路東側溝 15→10	土製品：粘土塊
11		ピット		土師器：片
12		ピット		土師器：片
13		ピット		土師器：环
14		ピット		土師器：片
15	ISD15	溝	中世 15→10	須恵器：甕 土師器：环 石製品：片
16		ピット		土師器：环×皿
17		ピット		土師器：大环
18		ピット		土師器：片
19		ピット		土師器：片
20	ISD20	道路側溝	西海道駅路西側溝 20→25	土師器：环×皿
21		ピット		土師器：环×皿
22		ピット		土師器：环×皿
23		ピット	柱穴	土師器：环×皿
24		ピット		土師器：甕、环×皿
25	ISD25	道路側溝	西海道駅路西側溝 20→25	土師器：环×皿 土製品：粘土塊
26		ピット		土師器：片
27		ピット		土師器：甕、环×皿
28		ピット		土師器：环×皿
29		ピット		土師器：片 土製品：粘土塊
30	ISD30	道路側溝	西海道駅路西側溝	須恵器：甕、大甕 土師器：大环、环×皿
31		ピット		土師器：甕
32		ピット		土師器：环×皿
33		ピット		土師器：片 土製品：粘土塊
34		ピット		土師器：甕 土製品：粘土塊
35	ISX35	道路	10・15・20・25・30 継続した道路	土師器：片
36		ピット		土師器：片
37	ISX37	路盤	刺突痕、路盤形成時のものか？	土師器：环（極小片）
38		ピット		土師器：甕
39		ピット		土師器：环、甕 黒色土器：椀（A類）
40		欠番		須恵器：甕、蓋×皿 土師器：片
41		ピット		須恵器：甕、蓋×皿 土師器：片
42		ピット		須恵器：环 土師器：甕
43		ピット		土師器：甕
44		ピット		土師器：甕、环 土製品：粘土塊
45		欠番		土師器：环 土製品：粘土塊
46		ピット		土師器：环×皿
47		ピット		土師器：甕
48		ピット		須恵器：环×皿 土師器：皿
49		ピット		土師器：环
茶色土	包含層			須恵器：环、甕 土師器：甕、蓋、环 土器：白磁
東側溝上硬化	包含層			須恵器：甕、甕 土師器：甕、甕把手、环、环 黑色土器：椀（A類）
西側溝上硬化	包含層			須恵器：甕 土師器：环、甕
路面上包含層	包含層			須恵器：甕 土師器：甕、环×皿
路盤				須恵器：甕 土師器：甕、环 土師器：环、甕 抹粧：粘土塊 鉄製品：刀子
路盤地山直上				須恵器：甕、垂、环 土師器：环、甕
埋瓦				土師器：片
瓦上				須恵器：甕 土師器：甕

Tab.1 遺構番号台帳

## 写真図版



東側調査区検出状況（西から）

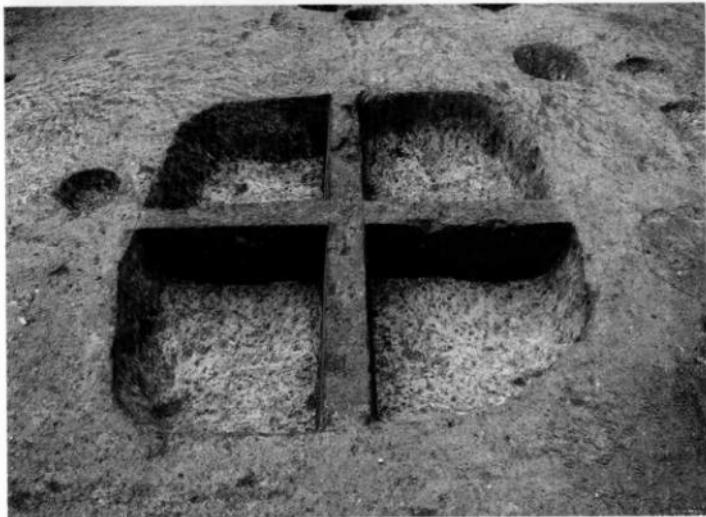


東側調査区完掘状況（西から）

Pla.2



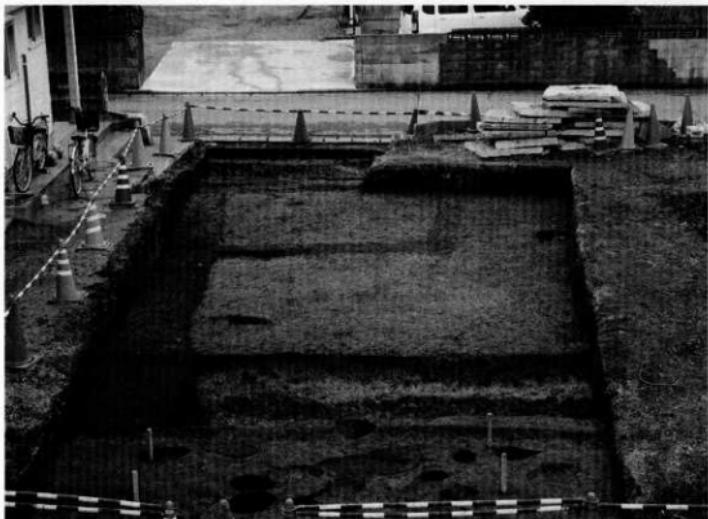
I.S.K.01 検出状況（北から）



I.S.K.01 土層断面（北から）

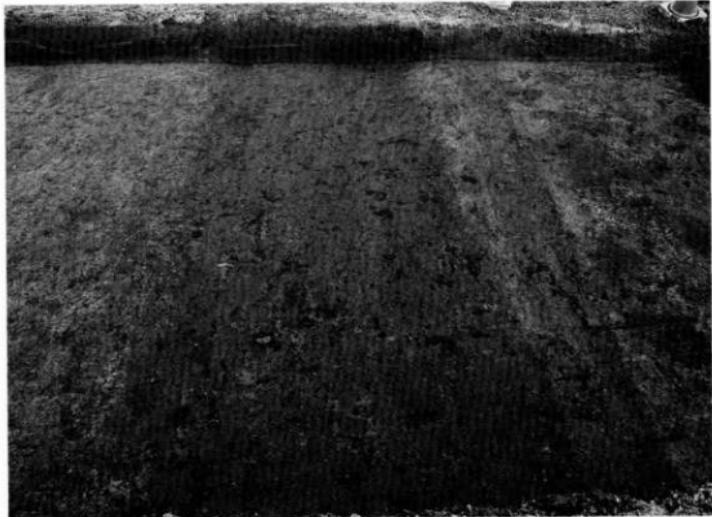


西側調査区検出状況（東から）



西側調査区完掘状況（東から）

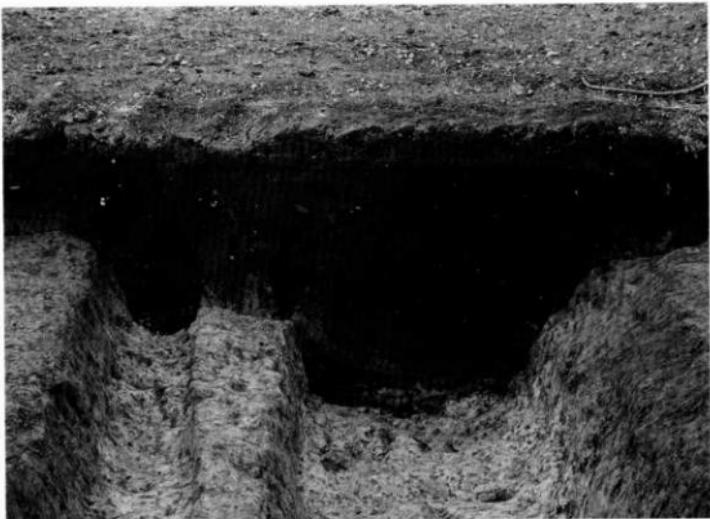
Pla.4



1 S D 10・15 検出状況（南から）



1 S D 10・15 完掘状況（北から）



LSD 10 土層断面（南から）



LSD 20・25・30 検出状況（南から）

Pla.6



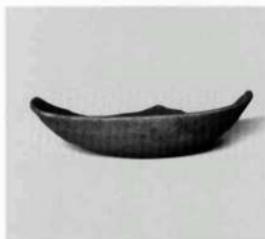
I S D 20・25・30 完掘状況（南から）



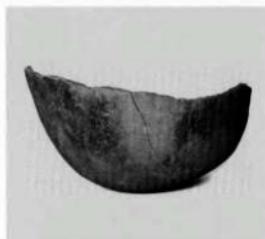
I S D 20・25・30 土層断面（南から）



I.S.X.37 完掘状況（北から）



1



2



3



4

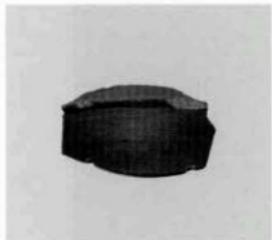


5

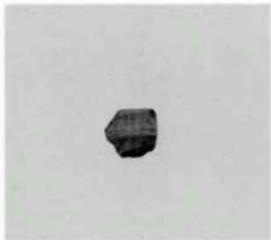


6

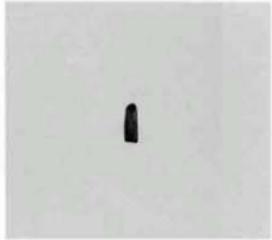
Pla.8



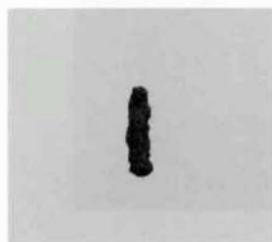
7



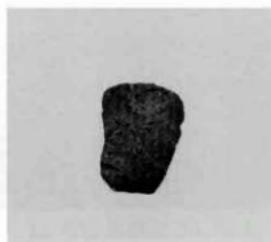
8



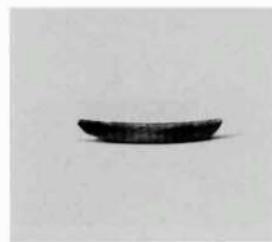
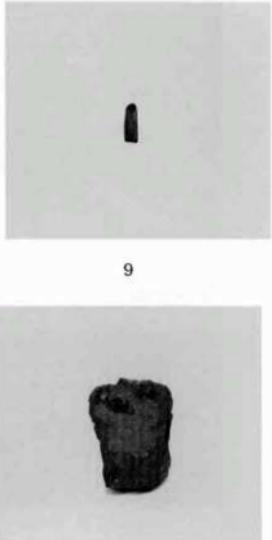
9



10



11



12

**筑後市文化財調査報告書 第103集**

**徳久アサミノ遺跡**

平成24年3月31日

発行 筑後市教育委員会

福岡県筑後市大字山ノ井898

TEL 0942-53-4111

印刷 大同印刷株式会社

佐賀市久保泉町大字上和泉1848-20

TEL 0952-71-8520(代)